

pen

with New Attitude

1/1・15

2010 No.259

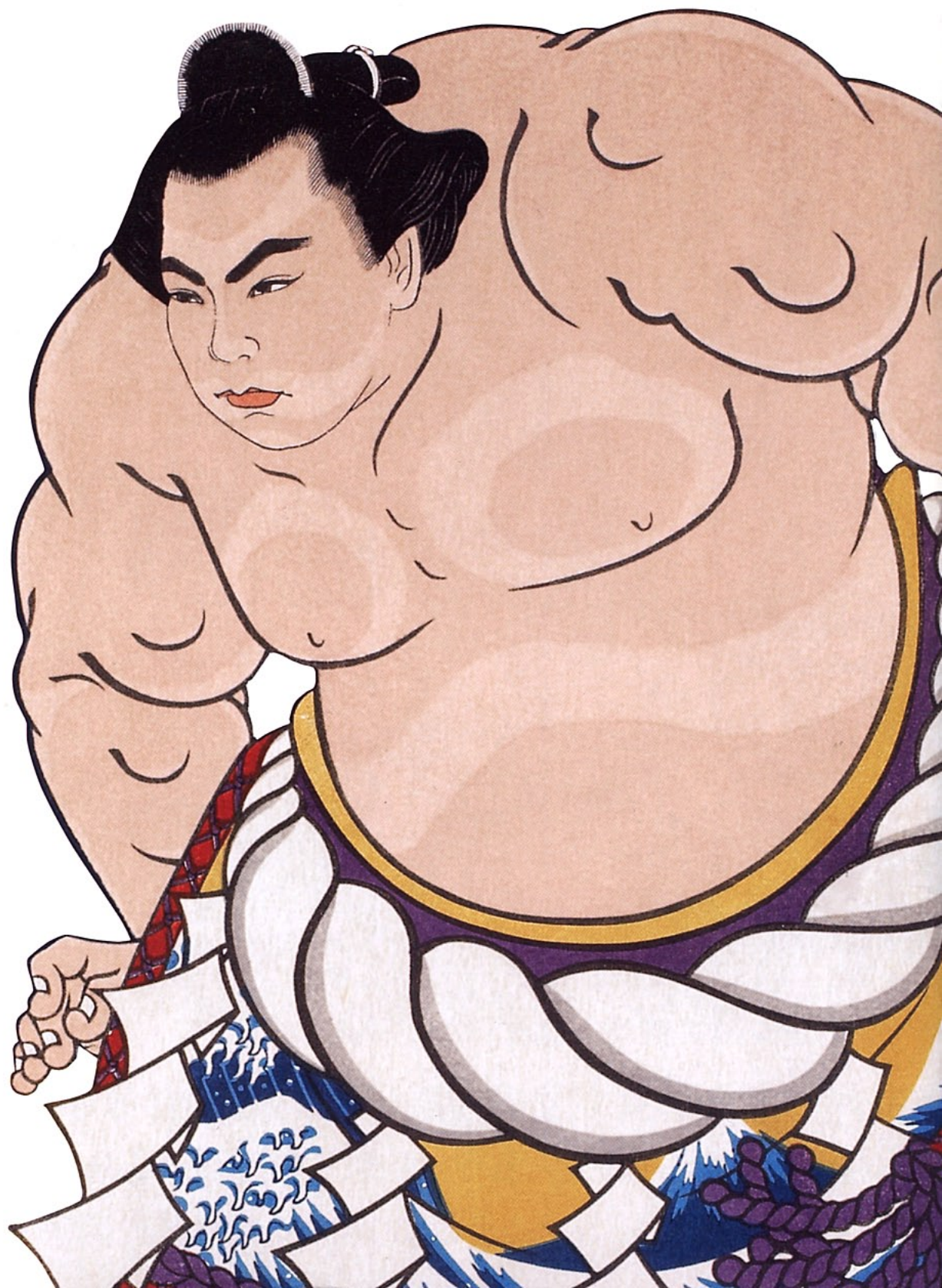
新年合併号

特別定価 600
yen

相撲は、美しい。

総力特集

日本の国技を再発見!



●ソムリエ・トータル飲料コーディネーター。米と酒の聖地、福井県に生を受ける。「All About」の日本酒・焼酎ガイド (<http://allabout.co.jp/gourmet/sake/>) も担当している。世界初のバイリンガル日本酒本「世界に誇る 品格の名酒」(GAP JAPAN) をこのほど国内外で出版。日本酒普及に奔走する日々が続く。

今宵も一杯

77

杯目 文・友田晶子

熱き時代の鼓動を感じる、ハイボールの原点「トリハイ」

ハイボールが人気だ。ママ役の美人女優がハイボールをおいしそうに飲むあのCMにやられちゃった人、多いみたい。私もそのクチで、こしはばらくもつ焼き屋でハイボール、ハンバーガーとハイボール、もちろんバーでもハイボールってなことになる。

ソーダ割りだとウイスキーの味わいが爽やかに、喉越しもよく、アルコールも低めで、とても飲みやすいのだ。そうだった、忘れていたよ、ハイボールという気分。飲みつけると、炭酸が強くてお腹が膨れるビールや、甘くてどうにも飽きるサワーやチューハイより都合がいいこともわかってきた。

ハイボールに使うウイスキーは、CMどおり「角」でもいいし、スコッチでも、バーボンでも、ブレンデッドでも、シングルモルトでもお好み次第なのだけど、原点といえば「トリハイ」。

そう、トリスのハイボールだ。

トリスは、ご存じ、日本の洋酒文化を築いたジャパニーズ・ブレンデッド・

トリスウイスキー Torys Whisky

原産国 日本

サントリー創業者、鳥井信治郎の名にちなんだブレンデッド・ウイスキー。1958年に登場した柳原良平によるイメージキャラクター「アングル・トリス」の愛嬌も、トリス人気に拍車をかけた。写真の180ml瓶は¥259

ウイスキーの草分けで、初リリースはなんと大正8年。「トリスバー」や「トリスを飲んでハワイへ行こう！」が懐かしい方は、お酒と人生の先輩ですネ。

正直、いままで飲んだことがなかったのだけれど、このハイボール人気で初めて口にしてみた。ストレートだと甲類焼酎みたいになちよつとつんとするアルコール臭があるけれど、ほんのりやさしいスモーキーフレーヴァーはまさに日本人好み。これでこんな金額！と思うと、なんだか涙が出ちゃうの。

これをソーダ割りにすると、アルコール臭も消え、なんとも軽やかに爽快で何杯もいける味わいになる。その上、こんな金額で！と思うと、やっぱり

り涙が出ちゃうの。

日本でも品質のいいウイスキー造りを、と情熱を傾けたジャパニーズ・ウイスキー創成期のエネルギーみたいなものを感じさせるトリス。「ハイボールならやっぱりトリスだよ」といいながら「トリハイお代わり」と注文する20代の若者たちを見ると、トリス世代ではない私でも「ほんとにわかってんのか、おい」と突っ込みたくなるし、「ああ、時代は変わった」なんて思う。

平成も22年目を迎えるいま、昭和の高度成長とともにあった酒、トリスが再び注目されている。「トリハイ」が、平成の高度成長を助けてくれないものだろうか。



「トリスウイスキー」が飲める店

十三トリスバー

ジュウソウトリスバー

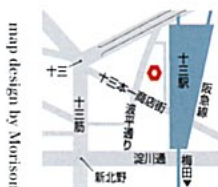
●大阪府大阪市淀川区十三本町1-2-7

☎06-6301-4826

営業17時30分～24時(フード23時30分L.O.)

ドリンク23時45分L.O.) ②日、祝

阪急全線十三駅より徒歩1分



map design by Morrison

photograph by Akashi Sano